

5. 予算および主要事業

水産試験場

事業名	平成21年度予算(当初)
水産試験場運営費	24,183千円
試験研究調査費	12,720
(冷水病対策技術開発研究費)	(4,000)
(琵琶湖生態系修復総合対策研究費)	(4,775)
(琵琶湖沿岸環境変動の影響調査研究費)	(700)
(増養殖技術研究費)	(550)
(漁況予報調査研究費)	(1,800)
(漁場環境調査研究費)	(895)
水産技術普及指導費	0
養鱒場運営費	4,474
養鱒事業費	79,900
調査指導費	1,000
職員費	230,620
計	352,897千円

水産課計上分

事業名	平成21年度予算(当初)
水産基盤整備事業費	4,303千円
(漁場環境保全創造事業)	(1,303)
(セタシジミ種苗放流事業)	(3,000)
資源管理型漁業推進総合対策事業費	1,050
水産有害生物対策事業費	2,700
(オオクチバス等外来魚撲滅対策研究費)	(2,700)
養殖漁業振興事業費	3,391
流通加工対策費	1,400
(冷水病保菌検査の促進)	(1,400)
ホンモロコ資源緊急回復対策事業	2,575
水産業温暖化対策事業	5,700
(水温上昇が琵琶湖の水産生物に及ぼす影響の解明)	(5,700)
計	21,119千円

平成 2 1 年 度 主 要 事 業 一 覧

事業名	事業概要
ホンモロコ資源緊急回復対策事業*	著しく減少したホンモロコ資源を早急に回復させるため、ふ化仔魚または発眼卵の放流技術開発を実証的規模で実施。 天然親魚生産 ふ化仔魚（発眼卵）大量生産、放流試験・放流効果調査
琵琶湖生態系修復総合対策研究	琵琶湖漁業の生産基盤である琵琶湖の多様で健全な生態系を回復させるための調査研究。 生物多様性モニタリング調査 沿岸帯の魚貝類生産機能修復再生研究 栽培対象魚の遺伝的多様性研究 水田等水辺利用による水産資源回復研究 遺伝的環境ストレス診断法の開発 アユの産卵場偏在化の原因究明
琵琶湖沿岸環境変動の影響調査研究	漁場環境の修復、維持管理を図るため、琵琶湖への汚濁等負荷の状況や環境の動向の継続的調査。 漁場環境の悪化実態 把握調査 ・農業濁水モニタリング ・漁網汚損モニタリングと原因解明 ・水草異常繁茂影響把握
オオクチバス等外来魚撲滅対策研究*	外来魚をより効果的に駆除する技術や繁殖抑制技術の開発。 効果的繁殖抑制技術開発 内湖での在来魚回復実証試験 蝸集水域での駆除技術開発
アユの冷水病等対策研究	アユの養殖や河川放流で問題となっている冷水病に対する予防・治療対策、種苗の除菌技術の開発。 冷水病に対する抗病性付与技術開発 冷水病菌拡散防止技術開発 浸漬ワクチンの開発試験
特産マス類資源の保全と活用に関する調査研究	河川生態系に配慮した渓流魚の増殖技術や漁場としての適正利用技術の開発。ビワマスの地域特産種としての開発。 ビワマスの漁業に関する調査・研究 ビワマス養殖事業化研究 ビワマスの高機能飼料開発研究
水産業温暖化対策事業*	温暖化による水温上昇や琵琶湖水循環の滞りが重要魚種の産卵・繁殖、成長や餌料生物等に及ぼす影響調査。 水温上昇が琵琶湖の水産生物に及ぼす影響の解明 ・湖産アユ・ホンモロコ・ビワマス・イサザ・セタシジミ
漁況予報調査研究	琵琶湖で最も漁獲量の多いアユの資源状況把握調査 産卵状況調査 ヒウオ生息状況調査 湖中アユ魚群分布調査
漁場環境調査	琵琶湖の漁場環境を把握するための継続調査 琵琶湖定点定期観測調査
資源回復計画推進調査事業*	資源回復計画実施の進行管理のための調査研究の実施。 ニゴロブナ資源回復計画推進調査 セタシジミ資源回復計画推進調査

注) * は本課予算